

SSKA 頸損

けい ぞん かい たい しん しょ
頸 損 解 体 新 書

2010

ひとりじゃないよ

**「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」
調査報告書**

(財)テクノエイド協会

「平成 21 年度福祉用具普及促進助成事業」

全国頸髄損傷者連絡会／日本リハビリテーション工学協会

協力事業

「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」

実行委員会編集

全国頸髄損傷者連絡

【 頸損解体新書 2010 PDF 版①～⑥ 目次 】

PDF版では個人情報保護のため、冊子版と異なる編集を行っています。

(敬称略)

①ご挨拶・プロローグ

「解体新書 2010」発刊にあたり	
全国頸髄損傷者連絡会 会長 三戸呂克美	1
日本リハビリテーション工学協会 理事長 松尾清美	2
「解体新書 2010」発刊によせて	
国立障害者リハビリテーションセンター 総長 岩谷力	3
DPI日本会議 議長 三澤了	4
頸髄損傷者の目指す自立生活と本書	5
頸髄損傷者の身体機能概説	7

②第 1 部

第 1 部 人生をあきらめない、自分らしく生きる	
1 - 1章 失うということ、そこから始まる新しい人生	2
【事例紹介-1~4】受傷からこれまでの体験	
①「20年間も家に閉じこもっていたあのころを振り返って」(2p)	
②「今の私を支えている言葉」(6p)	
③「人工呼吸器を使った高位頸損者の挑戦」(9p)	
④「いかに生きるのか、頸髄損傷者にできること」(13p)	
【事例紹介-5~7】在宅生活、そして家族との関係	
①「夫婦ふたりで、楽しく生きる」(22p)	
②「死ぬまでリハビリ」(23p)	
③「家族の介護と家族以外の介護。サービスの利用」(24p)	
【事例紹介-8】施設から地域での自立生活へ	
「一人暮らしを楽しむ」(25p)	
【事例紹介-9~10】結婚する、子育てをする	
①「たった1度の人生。さあ、これから!!!」(26p)	
②「頸損になってからの出産体験、そして子育てについて」(27p)	
【事例紹介-11】学ぶ	
「受傷後の高校、大学就学体験から」(29p)	
【事例紹介-12~15】はたらく	
①「在宅勤務の雇用形態」(30p)	
②「特例子会社に勤務して」(31p)	
③「障害者相談支援事業の仕事に取り組んで」(32p)	
④「訪問介護事業所立ち上げの経緯」(34p)	

【事例紹介-16】楽しむ

「車椅子ツインバスケットとの出会い」(35p)

【事例紹介-17】仲間がなかまを支えるということ

「愛知頸損連のセルフヘルプ活動について」(36p)

1 - 2章	これまでの活動、そして未来への伝言	38
	頸損歴 52 年の先輩からの繰り言 (38p)	
1 - 3章	頸髄損傷者損者を取り巻く課題	41

③第2部

第2部 頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査報告

2 - 1章	全国頸髄損傷者実態調査の方法	2
2 - 2章	地域間格差	4
2 - 3章	重度頸髄損傷者が抱える問題	13
2 - 4章	高齢化と性別による問題	21
2 - 5章	健康	31
2 - 6章	生活環境	41
2 - 7章	外出の壁	51
2 - 8章	就労の壁	56
2 - 9章	頸損実態調査票	62

④第3部

第3部 頸髄損傷者の自立生活と社会参加の促進に向けた提言

3 - 1章	頸髄損傷者を取り巻く社会状況	2
	①介助サービスの変遷と現状/行政・関係機関の動向(2p)	
	②17年前と比べた頸髄損傷者の生活変化(6p)	
3 - 2章	頸髄損傷者に残された社会的条件整備の課題	8
	①医療(8p)	
	②自立支援システム(9p)	
	③住環境・福祉機器(10p)	
	④交通・街づくり(11p)	
	⑤雇用・所得保障(12p)	
	⑥重度頸髄損傷者(13p)	
3 - 3章	誰もが自立できる社会を目指して	14
	①セルフヘルプの意義と重要性(14p)	
	②運動の原則と課題への取り組み(15p)	

⑤第4部

第4部 資料編

I. 自立を支える福祉施策、優遇措置等(抜粋紹介)	2
II. 補装具・日常生活用具支給資料(東京都八王子市)	3
III. 日本の法律と障害者権利条約の動向	4
IV. 頸髄損傷者に役立つ情報	6
V. 全国頸損・リハ工学協会連絡先／実行委員名簿	10

⑥第4部－II 参考資料

⑥第4部、P3－II 補装具・日常生活用具の八王子市資料